



松本絆那記者

佐久市5年

意外なことたくさん!

山田先生の話聞いてびっくりしたことがあります。一つ目は、忍者は知しきをたくさんもっていないといけないということです。二つ目は、忍者はにおいがするニンニクや肉などは食べてはいけないということです。食べるとにおいがして、ときに気づかれてしまうからです。三つ目は、忍者は友だちをつかって情報を聞き出すということです。



安藤菜記者

富士見町中学1年

(参加時6年)

運動だけでなく頭使う

忍者は昔、「忍び」とよばれて情報収集をしていました。その忍びに必要な三つのことを紹介します。



一つ目は、頭の回転が速いということ。忍びには臨機応変に対応することや落ち着いて対応することが大切になるからです。二つ目は、記憶力がよいこと。なぜなら、城のどこに何があるかを覚え、さらには図にしないではいけないからです。そして三つ目は、コミュニケーション能力が高いということ。人から話を聞くことでより多くの情報が手に入るからです。

つまり、忍びには運動神経だけでなく、頭を使うことも大切なのです。



小関すず記者

御代田町5年

黒党にインタビュー!

「伊賀流忍者集団・黒党」の方々にインタビューしました。黒党に入った理由は、ななさんは、生まれる前にお父さんが黒党になっていたからです。ななさんは1歳のときから忍者をやっていて、忍者歴は18年!だそうです。



いがさんは、けっこんする前の名じが「いが」で、調べてみたら、ごせんぞ様が忍者だったらしく始めたそうです。

十歩さんと八丁ぼりさん、頭りょうに忍者を始めた理由を聞きました。みんな「最後の忍者」といわれる川上(仁一)先生(三重大学特任教授)に教わったことを広めたいと思ったからだそうです。

松本朝陽記者

佐久市1年

やさしかったおにいさん

ほくは、あんごうをつくったことがいちばんこころにのこりました。ほうにクルクルとかみをまきつけて、じをかきました。まきつけるのがむずかしくて、こうこうせいのおにいさんにてつだってもらってできました。おにいさんがやさしくてうれしかったです。ほかのひととあんごうをこうかんしたけど、よむのがむずかしかったです。にんじやみたいにあんごうをつくらせてたのしかったです。



原弓琴記者

上田市6年

分かったことたくさん

山田先生のお話が一番よかったです。それは分かったことがたくさんあったからです。



一つは、忍者の変装について。忍者はいろいろな人に変装して情報をぬすみ出します。例えば、僧侶、山伏、商人などです。忍者は変装の達人と聞いたのですごいと思いました。

もう一つは、忍者は戦わないことです。私は忍者は敵と戦うという印象があったので戦わないと聞いてびっくりしました。でもいざというときは戦うこともあるそうです。

新屋敷流生記者

長野市3年

忍者の道具 使いたい

山田先生のお話で一番心にのこっているのは、忍者の持ち物です。なかでも火をつける道具がだいじです。火矢の火をつけて、たてものをもやすしごととかにつかうからです。



ほくが思ったことは、忍者はたくさんのおうぐをもっていて、一つ一つのとうぐをたくさんつかっているんだなと思いました。ほくは、忍者のとうぐをつかってみたいです。

Hello こども新聞編集部のニューフェイス

みんなの力をかりて

こども新聞編集部 松田 望



こども記者のみなさん、初めまして。4月から、読者センターのこども新聞編集部に来ました。

千葉県出身で、小学生の時はミニバスケットボールをやっていました。そのころ毎月買っていたのが漫画雑誌「りぼん」。シールの付録がもたないなくて使えず、大事にとってあったようです。この前、机の奥からたくさん出てきて、3歳の息子がペタペタ貼って遊んでいます。

信濃毎日新聞に入って12年。大人に話を聞いて、大人向けの記事を書いてきたので、「子どもたちは何を考えているのかな? そんな私に、こども新聞が作れるかな」と心配もありました。

でも、こども新聞編集部に来てからの1カ月で、子どもたちからもらったはがきや作文を読ませてもらったり、直接会ったりするうちに、「みんなの力を借りれば大丈夫!」と不安は吹き飛んでしまいました。

細かいところまで描かれたイラストや、大胆で伸び伸びした文字のはがき。感心して、うなずいてしまう作文やコメント。編集部の机で読ませてもらうときも「この作文すごい」「へえ、そうなんだ」「そう来たか!」「わははは!」と声を出さずにはいられません。

これから、こども記者のみなさんとお話するのが楽しみです。好きなこと、苦手なこと、読みたい新聞のアイデア…。いろいろ教えてもらって、子どもたちが読みたいこども新聞をいっしょに作っていきたいです。みんなの力を貸してくださいね!